

ローズグラス年2回採りににおける刈取限界日の推定及び栽培ごよみの策定

上 蘭 伝・福崎 国隆・河辺 愛宏 (鹿児島県農業試験場)

UEZONO, T., K. FUKUZAKI and Y. KAWABE: Making the Cultivator's Calendar of Rhodes Grass

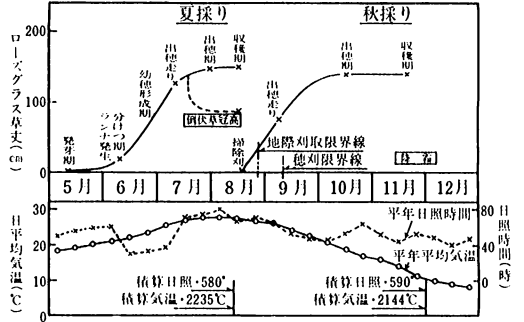
ローズグラスの採種栽培を安定多収技術として確立するには、年2回採種し、単収を引上げることが不可欠な条件で、それには、秋採りが確実にできる刈取限界日を知る必要がある。さらに標準化した栽培ごよみも重要で筆者らは、1976年に案を試み検討してきたので報告する。

1. 試験方法

供試品種ガンソンス、大隅支場黒色火山灰畑、1974~78年各5月播、一区63㎡、10a当たり播種量1.5kg、元肥は成分(kg)でN10、P₂O₅20、K₂O10を76cmに条播。収穫後N10、K₂O10kgを追肥軽培土。出穂期判定は別報に同じ。稔実歩合は200粒を手もみし1ボール2粒が約2%あり、200粒以上は100%とした。刈干し試験は一区地上10cm刈生草重5kg(5束)4区制、布シート上に4日間干した。反転せず脱粒している子実が自然脱粒。それを1m上からシート上に1束づつ3回落下し脱粒したもの、さらに脱穀脱粒は、脱穀機650rpmで手抜きして得た子実である。

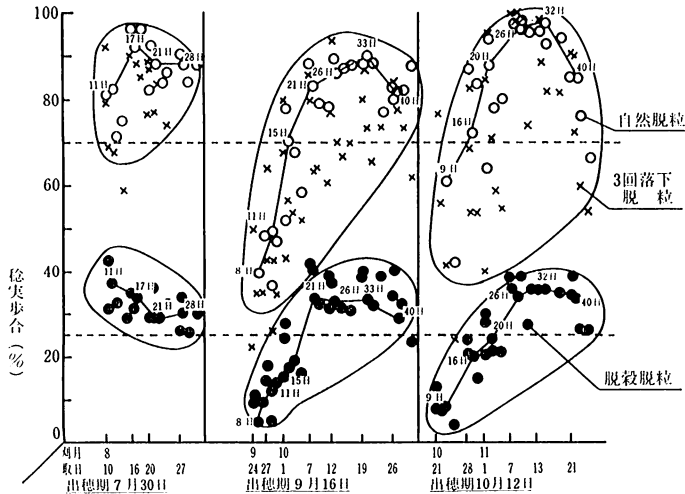
2. 試験結果および考察

刈取試験によれば地表10cm刈りは7月16日~9月初旬まで採種でき、9月7日以降は採種不可。穂刈区は9月10日採種可、20日刈りは不可。夏採りは出穂期後15日頃迄が再生力旺盛、30日を過ぎると衰え秋採りが困難であった。1回当たり反収は10.3~49.3kgと差が大、これを収穫月との関係でみると r=-0.79**で負の相関があり、夏採りが高い。温度と日照からみた秋採りは生育日数61~77日、積算温度1424~1835℃、日照時間293~401時間であった。出穂動向調査によれば立毛脱粒始めは、8月採り出穂期後10日、9~10月採り15日、11月採り20日、



第2図 ローズグラス2回採り生育相 (鹿児島大隅支場、1965~1974年気象表)

穂の半数脱粒はそれぞれ15日、20日、35日、完了は30日、40日、50日目であり、脱粒始めの日数と稔実歩合との関係は、日数の長い区(夏採り短、秋採り長)が低くなる傾向がみられた。そして登熟日数の長短と稔実歩合の相関 r=0.18 で認められなかった。これは立毛脱粒で稔実粒のは場蓄積が行われないためと考えられる。第1図自然脱粒の稔実歩合は、8月採りで出穂期11日目刈区82%、17日目刈区92%とすでに最高値を示し安定している。脱穀脱粒は11日目刈区から高く登熟速度が非常に早い。9月採りは徐々に21日~26日目刈区で最高。10月採りではさらにおくれ32日目刈区となっている。そして稔実歩合からみた収穫適期は8月採り出穂期後14日、9月採り20日、10月採り26日目となる。又刈取り当日3回落下脱粒りは出穂期率はほ場損失率の近似値と考えられ、8月採後15日頃までは少なく3.6%、20日頃になると8.7%と急に増加している。脱粒率7~8%は大部脱粒していると感じる量であり10月採りは32日目頃であった。第2図栽培暦によると、夏採りは5月10日基点に8月13日迄、秋採り8月18日~11月30日迄とし、その積算温度は約2100℃、日照時間約580時間で夏、秋採りはよく一致した。



第1図 刈取時期別、出穂期後日数別刈取りと稔実歩合 (1972~1974年)

ローズの収穫適期は夏採り出穂期後14~21日、秋採り26~40日で、平均反収は1回当たり20.6kg、日平均積算温度1450℃、収穫前ほ場損失率は5%以内で秋採り採種可能刈取限界日は8月末日、穂刈りはで9月10日であった。